

子育て支援活動の質的向上をめざして（１）

～子育て支援の研修に求められること～

白石 淑江

坂 鏡 子

（同朋大学・子どもの虐待防止ネットワーク・あいち）

（知多市児童センター）

はじめに

子育ての人間関係が縮小、希薄化するなかで、地域の支援活動の活発化が期待されている。しかし、子育ての当事者、ボランティア団体、民間、行政機関が、相互に連携し、それぞれの特性を活かし合うことができていない現状がある。

演者らは、昨年の保育学会第56回大会において、愛知県、名古屋市内における子育て支援活動のネットワークづくりをめざした「子育てフェスタ in あいち」（以下、「子育てフェスタ」と略す）開催の実態とその意義について報告した。「子育てフェスタ」開催の意義は、①愛知県と名古屋市の子育て支援に関わる行政、民間機関や市民が、職種や立場の違いを超えて「顔の見えるネットワーク」を育てる機会になる。②様々な子育て支援活動を顕在化させ、社会的な認知を促進する。③情報交換の場になる。④各活動の特性や関連性などを理解するとともに、現在カバーできていないニーズを明らかにする。④子育て支援活動の自主的な研修の場になる。等である。

今回はその継続研究であり、「子育てフェスタ in あいち」を研修の場として充実発展させるための課題を検討したので報告する。

研究の目的・方法

「子育てフェスタ in あいち」を研修の場として充実させるために、実行委員、分科会参加者の研修の実態、及び子育て支援活動で直面している問題をアンケート調査によって調べ、分析した。

調査期日 2003年11月15日（土）

調査対象 「第2回子育てフェスタ in あいち」分科会参加者 420名。実行委員 33名。

調査項目 1. 子育て支援に関する研修の機会
2. 子育て支援の問題点。
3. 実行委員のみ：子育て支援は子どもの支援になっているか？（自由記述）

研究の結果、及び考察

1. 調査対象の概要

回答数：232名（回収率55%）、
性別：女性（93%）、男性（5%）、不明（2%）
年齢：10歳代（6%）、20歳代（23%）、30歳代（19%）、

40歳代（27%）、50歳代（19%）、60歳代（5%）、不明（1%）

職種、立場：高校・大学生（21%）、子育て当事者（15%）、保育士（14%）、児童委員（10%）、ボランティア（7%）、保健師（5%）、NPOスタッフ（4%）、公務員（4%）、その他（20%）

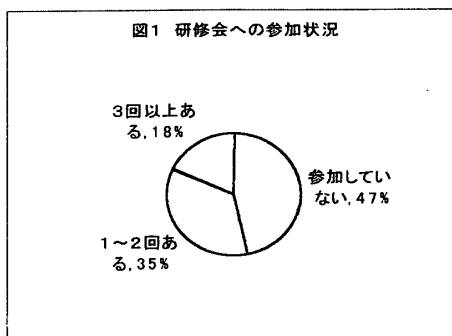
実行委員：各団体（グループ）の代表者 33名

NPO法人、ボランティアグループ、地域ネットワーク組織、主任児童委員、社会福祉協議会（市・県）、民間保育園連盟、助産師会、各機関の連絡会（子育て支援センター、児童館、ファミリーサポート）、行政関係機関（児童福祉、母子保健、社会教育等）など

2. 研修会への参加状況とその形態

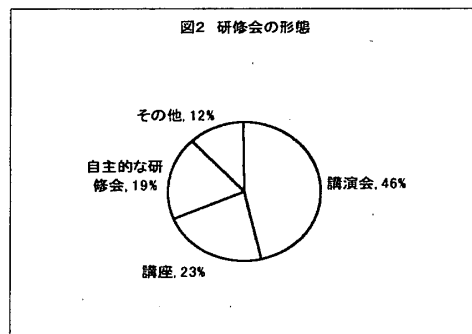
分科会参加者（学生を除く）のうち、平成15年度（4月～10月）に子育て支援に関する研修会に参加したものは約半数の53%であった。しかし、1～2回が35%を占めており、参加していないものが47%あることを考え併せると、研修の機会は少ない。

図1 研修会への参加状況



また、研修会の形態は45%が講演会であり、子育て支援活動について、共通の問題を話し合ったり、解決のヒントを得るような学習が少ない。子育て支援は、まだ実践の積み重ねが乏しく、各機関、団体、グループが手探りで活動を進めている。それぞれの実践を報告し、活動の目的や意義を確認したり、具体的な実践方法を探ることができる、研修の場が必要である。

3 子育て支援活動の問題点



分科会参加者に、子育て支援活動の問題点を尋ねた結果は図3に示した。(10項目中2項目選択)

圧倒的多数が「支援を必要としている人に情報が届かず、利用できていない」ことに問題を感じていた。次に、「市民と行政」「各機関や専門職」「同じ立場のものの同士」の情報交換が乏しいことや、つながりができていないことの問題点があげられていた。このような結果は、子育て支援ネットワークをさらに広げてゆくことの課題の大きさを示唆しており、実行委員会では「子育てフェスタ」の開催方法を検討することにした。(第二報参照)

また、「身近な所に子育ての広場がほしい」「活動を次世代に引き継いでいくことが難しい」との問題もあった。(活動の継続については第二報参照)

なお、「親が受身になっている」「親への支援が子どもの支援につながっていない」との問題については回答数が少なかった。一般にはこの種の声も聞かれるので、子育て支援に携わる者の意識を調べた。

4) 子育て支援は子どもの支援になっているか?

様々な分野で子育て支援活動を推進している実行委員に自由記述で回答してもらった結果、全体としては、親の支援から始めそれが子どもの支援になるよう、活動の質的向上を図りたいとの意識が窺えた。

- ① 親への支援は、結果的に子どもの支援になる。
親が楽しくいきいきとしていることが子どもにとってもよいこと。親の笑顔に勝るものなし。
 - ② 子育て支援活動の質を高めることが大切。
当事者の力をどう育てるか。親の主体性を尊重していくことが原則。子どもの真の利益を大前提に。
 - ③ 親の立場に立った支援が量的に不足している。
親を受け止めるところから始め子どもの支援に。
 - ④ 親が色々な人に関わることは子どもにもよい。
子どもを大切に思う大人が周囲にたくさんいることが大事。子どもやその家族を見守る地域社会に。
- まとめ

子育て支援に関する研修の機会はまだ少ない。支援活動の質を高める研修としては、活動を支える人材の確保を含めた子育て支援ネットワークの広がり、親支援の方法論を深める企画が求められよう。

